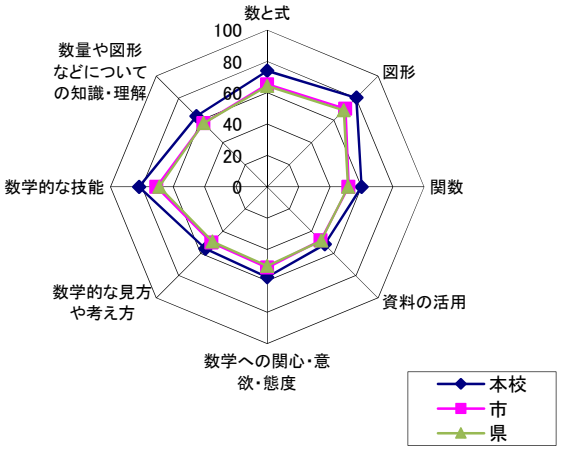
宇都宮市立星が丘中学校 第２学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	74.0	65.4	64.4
	図形	80.4	70.5	69.0
	関数	60.2	51.9	51.5
	資料の活用	51.8	48.1	48.6
観点	数学への関心・意欲・態度	57.5	51.5	50.4
	数学的な見方や考え方	55.8	50.2	49.4
	数学的な技能	81.8	70.6	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	63.8	57.5	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○領域の正答率は市や県を10ポイント近く上回っており，特に文字式や1次方程式の計算問題では95ポイント以上の正答率であり，数学的な技能の定着が十分になされている。 ●文字式の意味を数学的に説明する問題では，正答率が低く，自らの考えを書いたり説明したりすることに課題が残る。	・数学的な技能がきちんと定着している生徒が多いものの，活用する問題につなげることができないため，結果として点数を落としてしまう生徒が見られる。数学的な見方・考え方の力の定着を目指し，授業中の復習に扱う問題を工夫し，問題解決の要点も再確認しながら指導していく。
図形	○領域の正答率は市や県を10ポイント近く上回っており，特に「三角形の高さを作図する」問題では，県の正答率を20ポイント程上回っており，数学的な技能の定着が十分になされている。	・図形の学習に対して意欲を持てるような教材研究を続けるとともに，必要に応じて具体物の操作や，自分の考えを発表する場を設けるなどして，全体的なレベルアップを図っていく。
関数	○領域の正答率は市や県を8ポイント上回っており，特に「式からグラフをかく」問題では，県の正答率を22.3ポイント上回っており，基礎的な内容は十分に身に付いている。 ●関数の意味を問う問題では，県の正答率を4.85ポイント下回っており，関数についての知識・理解が不十分である。	・苦手意識をもっている生徒が多く，正答率も他領域に比べると低い。表・式・グラフを関連付けながら，関数の利用の問題を再度確認，復習し，数学的な技能のさらなる向上と，数学的な見方・考え方の定着を図る。
資料の活用	○領域の正答率は市や県を3ポイント上回っている。 ●代表値について理解し適切な値を選択する問題の正答率が低く，資料の活用における知識・理解が不十分である。	・正答率は県・市を上回っているものの，全体の正答率は51．8%と課題の残る領域である。また，自主学習でもおろそかになってしまう領域でもあるので，2年生で再度復習できるよう自主学習用のプリントを用意するなど，復習のできる環境を作っていく。